

ジャーナリズム史第15回(10/14)

アメリカ・ジャーナリズム史(2) ペニープレス時代始まる

The New York Sun

- ベンジャミン・デイ (Benjamin Day)
- 印刷工出身 「何とかして安く、大衆に受ける新聞」:4p. の小型版、朝刊紙
- 政治問題を無視:犯罪など警察種を主に、裁判所記事、市井のゴシップ、人間関係の読み物、火災の記事
- 通俗的に面白く、一般大衆に受ける

The Herald:1835~

- James Gordon Bennett (~ 1872)
- 発行6週間で7,000部
- 難しい政治記事 やさしくおもしろく:何事にも無遠慮、大胆、問題の核心をつく才能の持ち主
- ウォール街の経済ニュース、ゴシップを主軸:劇場便りなどの演芸、市政の出来事、噂話、競馬などのスポーツ記事、船舶ニュース、裁判所種
- 新聞の内容を広める さし絵
- ワシントン、ヨーロッパに支局:自社用の船を購入し、波止場でニュースを拾い、電信を使う
- メキシコ戦争(1846-48)に従軍記者を派遣 = ニュースの速報に努力
- 経営努力 新聞購読料と広告料に前払い金制を導入

New York Tribune: 1841~

- Horace Greley : ~ 1872 tribune=民衆保護者
- ニュース本位に徹し、安く売ろうとすると、大衆が求め、あるいは必要以上のものを提供し、ひいては大衆に迎合する、低俗趣味におちた新聞に危機感。新聞がせっかく獲得した自由、独立の立場を傷付ける 大衆を知的に向上させ、大衆のために高所から批判、指導する上品な新聞をつくらなければならない。

Tribune: 創刊1か月で1万部

「家庭で歓迎される新聞」

速報性: 前日の午後ボストンで行われた演説を翌朝6時にNYで読める

- ヨーロッパからの通信 = 船、馬、記者ありとあらゆる手段
- ハト便: 他社が打ち落とす

新刊書の批評欄 literary journalism

- 奴隷解放に力を注ぐ: 大統領選に出るが、落選
- センセーショナリズムの波に抵抗、「尊敬される新聞」もあることを認知させた。

NY Daily Times: 1851~

- Henry J. Raymond ~ 1869
 - 学生時代: ニューヨークの論客、大学卒: グリーリーの助手
- 最初から大企業を目指す: 資本金10万ドル、最新型のホー式輪転機
- 編集局、内勤の整理記者、原稿運びの給仕
- 他紙との差別化: 「できるだけ世界各地のニュースを新聞にもり、大衆の生活に即した...」
- ・ホイッグ党支持の政党紙として出発 あくまでも客観的報道を本位
- ・Tribuneから有能な若手記者、工員を引き抜く

NY Times ^:1857 ~

- 州議会に業務広告掲載を義務付けさせる = レイモンドが議長: Timesが指定紙に
- 創刊後1年で10万ドルを使い果たし、赤字まで出したが25,000部を確保
- レイモンド;「煽動し、興奮させることよりも、協力させることを求める。偏見に代える理性をもって、あらゆる公の活動、あらゆる公共問題を論ずるに際して、情熱に代えるに冷静な判断をもってしようとするものである」 保守的になる。

- 中流以上から歓迎された。奴隷解放には反対
「社会の大きな運動はすべて感情の動きに左右される。国家も国民も、たちどまってその経費について考えてみることはほとんどない。もしわれわれの祖先が、独立の経費を前もって予測していたならば、長期にわたる血なまぐさい革命のたたかいには突入しなかったであろう」
- 1857年 New York Timesと改題
- 1863年 募兵に反対するNY市民が暴徒化 「暴徒を弾圧せよ」：法の無力化は許せない。この怪物に「剣」をもって立ち向かうべき、それがただひとつの方法。

アメリカ・ジャーナリズム史参考文献

- J. ミルトン 『イエロー・キッズ』 (文藝春秋、1993)
- 伊藤慎一 『マスコミ物語』 (現代ジャーナリズム出版会、1966)
- 武市英雄 『日米新聞史話』 (福武書店、1984)
- 内野茂樹 『アメリカ新聞の生成過程』 (弘文堂、1960)
- 磯部祐一郎 『アメリカ新聞史』 (ジャパン・タイムズ、1971)